

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第19期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 アルフレッサ ホールディングス株式会社

【英訳名】 Alfresa Holdings Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 荒川 隆治

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番3号

【電話番号】 03-5219-5100

【事務連絡者氏名】 取締役 専務執行役員
財務企画・コーポレートコミュニケーション・コンプライアンス担当
岸田 誠一

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町一丁目1番3号

【電話番号】 03-5219-5100

【事務連絡者氏名】 取締役 専務執行役員
財務企画・コーポレートコミュニケーション・コンプライアンス担当
岸田 誠一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第18期 第2四半期 連結累計期間	第19期 第2四半期 連結累計期間	第18期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(百万円)	1,298,803	1,288,706	2,610,427
経常利益	(百万円)	13,559	10,956	31,918
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	11,097	6,988	24,501
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	19,348	7,632	27,119
純資産額	(百万円)	487,690	491,974	489,957
総資産額	(百万円)	1,336,343	1,333,810	1,316,658
1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	52.43	33.02	115.75
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	36.5	36.9	37.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	17,514	20,926	21,191
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	10,229	7,325	4,732
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,729	6,947	14,472
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	173,970	175,971	169,060

回次		第18期 第2四半期 連結会計期間	第19期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	25.44	17.70

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第19期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、第19期第2四半期連結累計期間および第19期第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

4. 第19期第1四半期連結会計期間の期首から受取情報料等の表示方法を営業外収益から売上高へ変更しており、第18期第2四半期連結累計期間および第18期連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該表示方法の変更の内容を反映した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第1四半期連結会計期間より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等の適用による会計方針の変更および受取情報料等について表示方法の変更を行っておりません。当該変更に伴い、以下の経営成績に関する説明については、前年同期比を記載しておりません。

なお、2021年3月期の諸数値につきましては、受取情報料等の表示方法の変更を反映した遡及適用後の諸数値を記載しております。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項」をご参照ください。

(1) 経営成績

当社グループでは、当期を最終年度とする3か年の中期経営計画「19-21中期経営計画 さらなる成長への挑戦 ~健康とともに、地域とともに~(以下「19-21中計」という。)」のなかでグループ経営方針に掲げた「グループ連携体制の構築」「事業モデルの変革」「地域の人々の健康への貢献」「さらなる生産性の向上」「人づくり」に引き続き取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、生命関連商品を取り扱う社会インフラとしての使命を果たすべく、感染拡大防止の対策を行うとともに、お取引先様および当社グループ従業員の安全を確保しながら医薬品等の安定供給に努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、新型コロナウイルス感染拡大、2021年4月に実施された薬価の中間年改定および医療機関との厳しい価格交渉等の影響により、売上高1兆2,887億6百万円(前年同期は1兆2,988億3百万円)、営業利益91億17百万円(同115億35百万円)、経常利益109億56百万円(同135億59百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益69億88百万円(同110億97百万円)となりました。

収益認識会計基準等の適用により、売上高は90億31百万円減少、営業利益は45百万円減少、受取情報料等の表示方法を変更したことに伴い、売上高および営業利益がそれぞれ41億28百万円増加しております。

なお、2021年6月、連結子会社のアルフレッサ株式会社(本社：東京都千代田区、以下「アルフレッサ」という。)が、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)を発注者とする医療用医薬品の入札における独占禁止法違反により、東京地方裁判所において有罪判決を受け、同年7月に罰金2億50百万円の刑が確定しております。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

医療用医薬品等卸売事業

医療用医薬品等卸売事業におきましては、新型コロナウイルス感染拡大、はじめて実施された薬価の中間年改定後の医療機関との価格交渉および独占禁止法違反による医療機関の入札指名停止に伴う影響等により、当社グループにとって厳しい事業環境となっております。新型コロナウイルス感染拡大が続くなか、当社グループでは、感染予防に十分配慮しながら医薬品の安定供給や新型コロナウイルスワクチンおよび治療薬の配送業務を最優先に事業活動を行っております。あわせて、欠品や供給調整が続くジェネリック医薬品への対応にも尽力しております。

当社グループは、医療用医薬品NO.1卸として勝ち続けるために「19-21中計」の重点施策として掲げた「MS機能のさらなる進化」「スペシャリティ商品への注力」「グループ物流の高度化、効率化と標準化」に引き続き取り組んでおります。

「グループ物流の高度化、効率化と標準化」への取り組みとして、アルフレッサは、2021年5月、静岡県藤枝市に静岡県全域と愛知県の一部をカバーする最新鋭の物流拠点として「静岡物流センター」を稼働いたしました。同センターは、厳格な温度管理、RFIDタグを使用したトレーサビリティの実現および庫内作業における作業負荷を軽減するためのロボットなどの設備を導入しております。また、災害対策として建物全体に免震構造を採用し、72時間稼働する大型非常用電源を設置するなど災害時でも持続可能な物流センターであります。

さらに、アルフレッサは、2021年8月、ヤマト運輸株式会社(本社：東京都中央区)とのヘルスケア商品の共同配送スキーム構築の第一弾として、ビッグデータとAIを活用した配送業務量を予測するシステムと適正配車を行うシステムを開発し、導入いたしました。当システムの導入により、配送生産性の向上、走行距離およびCO₂排出量の削減ならびに医療機関における対面作業時間の削減を目指してまいります。

事業領域の拡大を視野に入れたベンチャー企業への投資として、アルフレッサは、2021年5月、ドーナツロボティクス株式会社(本社：東京都港区)と資本業務提携契約を締結し、ロボット技術とデジタル技術を活用した医療分野における社会課題の解決を目指し協業を進めております。

また、アルフレッサは、2021年8月、再生医療等製品を開発するNCメディカルリサーチ株式会社(本社：東京都港区)へ出資いたしました。同社は、ヒト骨髄由来間葉系幹細胞を原材料とした再生医療等製品の開発を進めており、両社は今般の出資にあたり、同製品の承認・上市後の国内における独占流通契約も締結しております。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、このような状況のなか、売上高1兆1,333億50百万円(前年同期は1兆1,393億21百万円)、営業利益70億31百万円(同96億39百万円)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高79億32百万円(同75億48百万円)を含んでおります。

出典：「2021最新オール・データ&ランキング」卸グループ別医療用医薬品事業シェア(株式会社ドラッグマガジン)

セルフメディケーション卸売事業

セルフメディケーション卸売事業におきましては、「トータルヘルスケア・マーチャンダイジング・ホールセラー」を推進し、新たな付加価値による差別化と創造性を持つオンリーワン卸を目指し、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安定的かつ持続的な事業基盤の確立」「消費者視点に立った商品提案」「専売メーカー・専売商品の取り組み強化」などに引き続き取り組んでおります。

2021年4月、連結子会社のアルフレッサヘルスケア株式会社(本社：東京都中央区)と同社の完全子会社である株式会社茂木薬品商会(本社：東京都中央区)は、アルフレッサヘルスケア株式会社を存続会社とする吸収合併をいたしました。今後は両社の経営資源を有効かつ効率的に活用して、経営基盤のさらなる強化を図ってまいります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、2020年4月の全国を対象とした緊急事態宣言下における感染予防関連商品の急激な需要増の反動減および物流関連費用の増加等により、売上高1,299億1百万円(前年同期は1,341億84百万円)、営業利益10億93百万円(同17億75百万円)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高2億84百万円(同3億15百万円)を含んでおります。

医薬品等製造事業

医薬品等製造事業におきましては、グループシナジーの強化とさらなる規模拡大を推進するため、「19-21中計」の重点施策として掲げた「安心・安全・誠実なモノづくりの推進」「グループニーズに沿った製品の拡充」「製造受託・医薬品原薬事業の拡大」などに引き続き取り組んでおります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、前期に製造販売承認を譲り受けた長期収載品の売上寄与および2021年3月に販売を開始した新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)抗原迅速検査キット「アルソニック[®] COVID-19 Ag」等の感染症迅速検査キットの売上増ならびに受託製造が堅調であったこと等により、売上高228億64百万円(前年同期は204億76百万円)、営業利益10億96百万円(同73百万円)となりました。

なお、売上高には、セグメント間の内部売上高59億92百万円(同39億23百万円)を含んでおります。

医療関連事業

医療関連事業におきましては、「19-21中計」の重点施策として掲げた「機能に応じた店舗の再編」「収益改善を目指した効率化・高度化」「多機能化による地域社会への貢献」などを引き続き推進しております。

2021年4月、連結子会社のアポロメディカルホールディングス株式会社(本社：東京都豊島区)および株式会社日本アポック(本社：埼玉県川越市)ならびに当社の完全子会社の株式会社中日ファーマシー(本社：名古屋市中区)は、アポロメディカルホールディングス株式会社を存続会社とする吸収合併を行い、アポクリート株式会社へ商号変更いたしました。この3社が経営統合することで、調剤薬局事業の経営基盤の強化と効率化を図り、これまで以上にコンプライアンスへの取り組みを強化するとともに顧客視点に立った新たな価値の創造を目指してまいります。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間の業績は、合併による店舗数の増加、薬価改定および新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、売上高167億99百万円(前年同期は166億9百万円)、営業損失2億85百万円(同2億89百万円)となりました。

(2) 財政状態

資産の部

資産は、前連結会計年度末と比較して171億51百万円増加し、1兆3,338億10百万円となりました。

流動資産は、176億70百万円増加し、1兆101億51百万円となりました。これは主として、「現金及び預金」が69億22百万円、「受取手形及び売掛金」が84億5百万円および返品資産等の「その他」が39億円増加したことによるものです。

固定資産は、5億18百万円減少し、3,236億58百万円となりました。これは主として、保有株式の時価上昇等に伴い「投資有価証券」が9億75百万円増加した一方で、無形固定資産が9億76百万円減少および投資その他の資産の「その他」が8億14百万円減少したことによるものです。

負債の部

負債は、前連結会計年度末と比較して151億34百万円増加し、8,418億35百万円となりました。

流動負債は、203億72百万円増加し、8,043億1百万円となりました。これは主として、「支払手形及び買掛金」が89億98百万円、「未払法人税等」が35億98百万円および返金負債等の「その他」が80億15百万円増加したことによるものです。

固定負債は、52億37百万円減少し、375億33百万円となりました。これは主として、「長期借入金」が3億69百万円、「退職給付に係る負債」が3億42百万円および繰延税金負債等の「その他」が45億25百万円減少したことによるものです。

純資産の部

純資産は、前連結会計年度末と比較して20億17百万円増加し、4,919億74百万円となりました。

これは主として、「利益剰余金」が13億74百万円増加および保有株式の時価上昇等に伴い「その他有価証券評価差額金」が6億81百万円増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、69億11百万円増加(前年同期は352億94百万円の減少)し、1,759億71百万円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、前第2四半期連結累計期間と比較して以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、増加した資金は209億26百万円(前年同期は175億14百万円の減少)となりました。これは主として、「税金等調整前四半期純利益」103億13百万円および「減価償却費」59億40百万円の計上があったこと等によるものです。なお、営業活動におけるキャッシュ・イン・フローは前年同期に比べて384億40百万円増加しておりますが、これは主として、運転資本増減の影響および「法人税等の支払額」が減少したこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、減少した資金は73億25百万円(前年同期は102億29百万円の減少)となりました。これは主として、物流センター建設等の物流設備投資および製造事業強化のための製造設備投資を中心とした「有形固定資産の取得による支出」61億31百万円ならびにベンチャー企業への出資等の「投資有価証券の取得による支出」8億81百万円があったこと等によるものです。なお、投資活動におけるキャッシュ・アウト・フローは前年同期に比べて29億3百万円減少しておりますが、これは主として、有形固定資産の取得、投資有価証券の取得および売却が減少したことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、減少した資金は69億47百万円(前年同期は77億29百万円の減少)となりました。これは主として、剰余金の配当を実施したこと等によるものです。なお、財務活動におけるキャッシュ・アウト・フローは前年同期に比べて7億81百万円減少しておりますが、これは主として、子会社株式を前期に追加取得した影響によるものです。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は6億91百万円(前年同期比4.9%増)であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	540,000,000
計	540,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	235,017,600	235,017,600	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	235,017,600	235,017,600	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	-	235,017,600	-	18,454	-	58,542

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	26,229	12.39
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	9,688	4.58
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	8,574	4.05
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	5,965	2.82
アルフレッサ ホールディングス 社員持株会	東京都千代田区大手町1丁目1-3	5,641	2.67
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	4,277	2.02
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 第一三共口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1丁目8-12	3,908	1.85
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2丁目15-1)	3,624	1.71
株式会社日本カストディ銀行(信託口7)	東京都中央区晴海1丁目8-12	3,515	1.66
第一三共株式会社	東京都中央区日本橋本町3丁目5-1	3,202	1.51
計	-	74,626	35.26

(注) 1. 上記の信託銀行所有株式数のうち、信託業務に係る株式を次のとおり含んでおります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 25,675千株

株式会社日本カストディ銀行(信託口) 8,305千株

なお、株式会社日本カストディ銀行(信託口7)の所有株式数は、すべて信託業務に係る株式です。

2. みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 第一三共口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行の所有株式は、第一三共株式会社が所有していた当社株式をみずほ信託銀行株式会社に信託したものが株式会社日本カストディ銀行に再信託されたもので、議決権は第一三共株式会社に留保されております。

3. 当社は自己株式23,345千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

4. 次の法人より大量保有報告書等の提出があり、報告義務発生日現在で当社株式を所有している旨が記載されておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有数を確認できませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書等が複数回提出されている場合は、最新の報告書の概要を記載しております。また、保有株券等の数および株券等保有割合について共同保有者に係る保有分として報告があった場合は、その株数および保有割合を含めて記載しております。

氏名又は名称	住所	提出日	報告義務発生日	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
シルチェスター・インターナショナル・インベスターズ・エルエルピー (Silchester International Investors LLP)	英国ロンドン ダブリュー 1ジェイ 6ティーエル、ブルトン ストリート1、タイム アンド ライフビル5階	2021年7月5日	2021年7月2日	21,702	10.25

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 23,345,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 211,451,600	2,114,516	-
単元未満株式	普通株式 220,200	-	-
発行済株式総数	235,017,600	-	-
総株主の議決権	-	2,114,516	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」および「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ、2,800株および80株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数28個が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) アルフレッサホールディングス株式会社	東京都千代田区 大手町1丁目1-3	23,345,800	-	23,345,800	9.94
計	-	23,345,800	-	23,345,800	9.94

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	170,277	177,200
受取手形及び売掛金	593,343	601,749
有価証券	59	59
商品及び製品	141,702	139,880
仕掛品	1,314	1,209
原材料及び貯蔵品	5,032	5,180
その他	81,454	85,354
貸倒引当金	702	482
流動資産合計	992,480	1,010,151
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	64,751	65,034
土地	66,255	67,154
その他（純額）	27,936	26,826
有形固定資産合計	158,943	159,016
無形固定資産		
のれん	3,476	3,182
その他	13,960	13,278
無形固定資産合計	17,436	16,460
投資その他の資産		
投資有価証券	127,657	128,633
その他	24,362	23,548
貸倒引当金	4,223	3,999
投資その他の資産合計	147,797	148,181
固定資産合計	324,177	323,658
資産合計	1,316,658	1,333,810

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	753,857	762,856
短期借入金	240	123
未払法人税等	3,895	7,493
賞与引当金	6,264	6,141
その他	19,671	27,686
流動負債合計	783,929	804,301
固定負債		
長期借入金	389	20
退職給付に係る負債	9,233	8,891
その他	33,147	28,622
固定負債合計	42,771	37,533
負債合計	826,700	841,835
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,454	18,454
資本剰余金	101,660	101,660
利益剰余金	331,459	332,833
自己株式	29,370	29,371
株主資本合計	422,203	423,576
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67,983	68,664
繰延ヘッジ損益	0	0
土地再評価差額金	3,657	3,657
為替換算調整勘定	75	148
退職給付に係る調整累計額	3,132	3,022
その他の包括利益累計額合計	67,533	68,179
非支配株主持分	221	219
純資産合計	489,957	491,974
負債純資産合計	1,316,658	1,333,810

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	1,298,803	1,288,706
売上原価	1,210,025	1,201,370
売上総利益	88,778	87,336
返品調整引当金戻入額	634	-
返品調整引当金繰入額	521	-
差引売上総利益	88,891	87,336
販売費及び一般管理費	77,356	78,218
営業利益	11,535	9,117
営業外収益		
受取利息	34	33
受取配当金	1,192	1,220
その他	990	800
営業外収益合計	2,217	2,054
営業外費用		
支払利息	44	39
不動産賃貸費用	99	94
その他	48	81
営業外費用合計	192	215
経常利益	13,559	10,956
特別利益		
固定資産売却益	44	46
投資有価証券売却益	2,684	153
特別利益合計	2,729	199
特別損失		
固定資産売却損	5	0
固定資産除却損	31	83
減損損失	66	16
投資有価証券評価損	4	664
その他	12	77
特別損失合計	120	842
税金等調整前四半期純利益	16,168	10,313
法人税、住民税及び事業税	6,346	6,833
法人税等調整額	1,271	3,506
法人税等合計	5,075	3,326
四半期純利益	11,093	6,986
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,097	6,988
非支配株主に帰属する四半期純損失()	3	1

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,361	681
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	19	73
退職給付に係る調整額	86	109
その他の包括利益合計	8,255	645
四半期包括利益	19,348	7,632
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,352	7,634
非支配株主に係る四半期包括利益	3	1

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	16,168	10,313
減価償却費	5,524	5,940
減損損失	66	16
のれん償却額	313	314
貸倒引当金の増減額(は減少)	437	444
賞与引当金の増減額(は減少)	1,535	239
役員賞与引当金の増減額(は減少)	135	261
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	649	507
受取利息及び受取配当金	1,227	1,253
支払利息	44	39
固定資産売却損益(は益)	38	45
固定資産除却損	31	83
投資有価証券売却損益(は益)	2,672	145
投資有価証券評価損益(は益)	4	664
売上債権の増減額(は増加)	970	7,715
棚卸資産の増減額(は増加)	2,336	1,861
仕入債務の増減額(は減少)	21,482	8,725
その他	1,979	5,164
小計	9,371	22,509
利息及び配当金の受取額	1,228	1,255
利息の支払額	42	39
法人税等の支払額	9,328	2,800
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,514	20,926

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	553	408
定期預金の払戻による収入	403	403
有形固定資産の取得による支出	10,299	6,131
有形固定資産の売却による収入	165	209
無形固定資産の取得による支出	684	738
長期前払費用の取得による支出	783	150
投資有価証券の取得による支出	1,667	881
投資有価証券の売却による収入	3,099	312
貸付けによる支出	33	21
貸付金の回収による収入	133	114
その他	9	33
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,229	7,325
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	50	50
長期借入金の返済による支出	179	536
リース債務の返済による支出	935	744
自己株式の取得による支出	0	1
自己株式の売却による収入	-	0
配当金の支払額	5,291	5,715
非支配株主への配当金の支払額	6	-
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	1,265	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,729	6,947
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	39
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	35,482	6,692
現金及び現金同等物の期首残高	209,264	169,060
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	187	218
現金及び現金同等物の四半期末残高	173,970	175,971

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。主な変更点として、財またはサービスを他の当事者によって提供されるように手配する履行義務である場合には、代理人として、取引により得られた対価の額と第三者に対する支払額の純額で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,031百万円減少、売上原価は9,008百万円減少、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ45百万円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替を行っておりません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これにより、従来、時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品とされていた社債その他の債券については取得原価をもって四半期連結貸借対照表価額としておりましたが、観察可能なインプットを入手できない場合であっても、入手できる最良の情報に基づく観察できないインプットを用いて算定した時価をもって四半期連結貸借対照表価額としております。

(表示方法の変更)

従来、「営業外収益」に計上しておりました「受取情報料」ならびに「その他」に含めて計上しておりました雑収入のうち販売情報提供収入および受取商品回収手数料について第1四半期連結会計期間から「売上高」に含めて計上することに变更しております。

この変更は、急速に進展するIT化およびDX(Digital Transformation)時代の到来に伴い情報提供サービスの重要性が高まっていることから当該活動を主要な営業活動のひとつとして位置づけたことならびに医薬品等の流過程で発生する商品回収に係る役務提供を主要な営業活動のひとつとして位置づけたことに伴い、当社グループの営業活動の成果を適切に表示するために行うものであります。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替を行っております。

この結果、前連結会計年度末の連結貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に表示しておりました未収入金1,021百万円を「受取手形及び売掛金」に組み替え、「受取手形及び売掛金」が593,343百万円、「その他」が81,454百万円となっております。また、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益及び包括利益計算書において、「営業外収益」に表示していた「受取情報料」2,986百万円および「その他」に含めて表示していた雑収入のうち690百万円を「売上高」に組み替え、「営業利益」が3,676百万円増加し、「売上高」が1,298,803百万円、「営業利益」が11,535百万円となっております。なお、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

あわせて、前第2四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました未収入金の増減額は、上記「受取情報料」等の計上区分変更に伴い「売上債権の増減額」に含めております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めておりました未収入金の増減額75百万円は、「売上債権の増減額」に組み替え、「売上債権の増減額」が970百万円、「その他」が1,979百万円となっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結子会社以外の会社の仕入債務等に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
エス・エム・ディ(株)	6,821百万円	エス・エム・ディ(株)	9,142百万円
その他	1	その他	0
計	6,822	計	9,142

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
給与手当	25,484百万円	24,781百万円
賞与引当金繰入額	5,577	5,757
福利厚生費	5,086	5,128
退職給付費用	1,455	1,225
荷造運送費	11,372	12,405
減価償却費	3,991	4,415

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
現金及び預金勘定	175,403百万円	177,200百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,433	1,228
現金及び現金同等物	173,970	175,971

(株主資本等関係)

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月12日 取締役会	普通株式	5,291	25.00	2020年3月31日	2020年6月4日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月5日 取締役会	普通株式	5,503	26.00	2020年9月30日	2020年12月4日	利益剰余金

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月14日 取締役会	普通株式	5,715	27.00	2021年3月31日	2021年6月4日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月4日 取締役会	普通株式	5,715	27.00	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,131,772	133,868	16,553	16,609	1,298,803	-	1,298,803
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,548	315	3,923	-	11,787	11,787	-
計	1,139,321	134,184	20,476	16,609	1,310,591	11,787	1,298,803
セグメント利益又は損失()	9,639	1,775	73	289	11,198	336	11,535

(注) 1. セグメント利益の調整額336百万円には、セグメント間取引消去257百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用78百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	医療用 医薬品等 卸売事業	セルフメ ディケーシ ョン卸売事業	医薬品等 製造事業	医療関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,125,417	129,617	16,871	16,799	1,288,706	-	1,288,706
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,932	284	5,992	-	14,209	14,209	-
計	1,133,350	129,901	22,864	16,799	1,302,916	14,209	1,288,706
セグメント利益又は損失()	7,031	1,093	1,096	285	8,934	182	9,117

(注) 1. セグメント利益の調整額182百万円には、セグメント間取引消去92百万円および各報告セグメントに配分していない全社費用90百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益または損失の算定方法を同様に變更しております。

また、当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「医療用医薬品等卸売事業」の売上高が8,407百万円減少、セグメント利益が10百万円増加し、「セルフメディケーション卸売事業」の売上高が604百万円減少、セグメント利益が47百万円減少し、「医薬品等製造事業」の売上高が19百万円減少、セグメント利益が8百万円減少しております。

3. 表示方法の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から受取情報料等の表示方法を営業外収益から売上高へ変更したため、事業セグメントの利益または損失の算定方法を同様に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益または損失の算定方法により作成したものを記載しており、従来の方針に比べて、「医療用医薬品等卸売事業」の売上高およびセグメント利益が3,666百万円増加し、「セルフメディケーション卸売事業」の売上高およびセグメント利益が61百万円増加し、「医療関連事業」の売上高が4百万円増加、セグメント損失が4百万円減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

1. 医療用医薬品等卸売事業

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
医療用医薬品	1,163,434
診断薬	55,171
医療機器等	83,215
その他	25,630
内部売上高	202,033
外部顧客への売上高	1,125,417

2. セルフメディケーション卸売事業

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
一般用医薬品	69,177
サプリメント、健康食品、食品等	30,656
その他	30,067
内部売上高	284
外部顧客への売上高	129,617

3. 医薬品等製造事業

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
医療用医薬品	9,701
診断薬	1,394
医療機器等	3,003
医薬品原薬	3,011
受託製造	5,179
その他	1,010
内部売上高	6,429
外部顧客への売上高	16,871

4. 医療関連事業

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
調剤報酬	16,587
その他	212
外部顧客への売上高	16,799

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益(円)	52.43	33.02
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	11,097	6,988
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	11,097	6,988
普通株式の期中平均株式数(千株)	211,673	211,671

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2021年11月4日開催の取締役会において、会社法第459条第1項および当社定款第46条の規定に基づき、以下のとおり、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元の充実および資本効率向上のため。

2. 取得に係る事項の内容

- | | |
|----------------|--------------------------|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得しうる株式の総数 | 11,000,000株(上限) |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 15,000百万円(上限) |
| (4) 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付 |
| (5) 取得期間 | 2021年11月5日から2022年3月24日まで |

(公正取引委員会の検査)

当社の連結子会社であるアルフレッサ株式会社は、2021年11月9日、独立行政法人国立病院機構(NHO)または独立行政法人労働者健康安全機構(JOHAS)が運営する「九州エリア」に所在する病院が調達する医薬品に関して独立行政法人国立病院機構本部が行う入札等において、独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立入検査を受けました。当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。検査は継続中であることから、現時点ではその影響額を合理的に見積ることは困難であります。

2 【その他】

2021年11月4日開催の取締役会において、2021年9月30日を基準日とする剰余金の配当(中間配当)に関し、次のとおり決議いたしました。

- | | |
|------------------------|------------|
| (1) 配当金の総額 | 5,715百万円 |
| (2) 1株当たりの金額 | 27円00銭 |
| (3) 支払請求の効力発生日および支払開始日 | 2021年12月6日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

アルフレッサ ホールディングス株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 細 矢 聡

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡 邊 崇

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 斉 藤 直 樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアルフレッサホールディングス株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アルフレッサホールディングス株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途、財務諸表に添付される形で保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。